

映画

奪われた村

避難5年目の飯館村民



日時：2019年3月16日(土)14時30分(上映開始)～16時30分

会場：サンレイクかすや多目的ホール(福岡県糟屋郡粕屋町駕与丁1丁目6-1)

参加費：500円(高校生以下無料)

〈お問い合わせ先〉池永 092-642-8525

～～同時開催～～

豊田直巳写真展『フクシマの7年間～尊厳の記録と記憶』(13時00分～17時00分)

～避難者の8年～金本友孝さん(九州避難者訴訟原告団長)講演会(15時45分ころ～)



「遺言～原発さえなければ」共同監督

豊田直巳

「日本と原発」監督・弁護士

河合弘之

主催

『奪われた村-避難5年目の飯館村民-』上映会実行委員会

協賛

グリーンコープ生活協同組合ふくおか 福岡東支部

エフコープ生活協同組合

メルヘンのような村の喜びと

そして哀しみと抵抗の記憶のために

「日本で最も美しい村」と呼ばれた村がありました。手間ひまを掛けるという意味の方言＝「までい」を村起こしの標語にし、村人たちが作り上げた飯館村です。その名が全国に、さらには世界に放射能に汚染された村として知られるようになりました。しかし原発事故などなかったかのような国策の下で、人びとは早くもその村のことを忘れようとしています。残されたのはセシウムと汚染土を詰めたフレコンバッグと、そして村を追われた人びとです。それでも飯館村に、誰にも見られることのない花々が今日も咲いています。

このドキュメンタリーは、村人の心に残る「美しい」村の記憶であり、人びとの哀しみと苦しみと、忘れられない喜びの記録です。それは、その記憶や記録すらなかったこととしようとする者たちへの抵抗でもあります。



佐藤忠義
木がダメなの。県の農林事務所が来て、焼かないで下さって言われた。木に放射性物質が付着しているので…



長谷川健一
春先の火入れ、野焼きをやって肥料を撒いて。そういう仕事を地区の人たちが出てきて共同作業で…



菅野榮子
この土で生きるんだって思って、生きてきたもん。それがみんな、あのフレコンバッグの中に入っていったんだよね



伊藤延由
帰ったときには、こういう物が全て汚染されているんですよっていうことを、事実として証明したいだけです



阿部猛
生活は苦しいけど、戻してもらえたら、戻してもらいたね戻してもらえらんだったら



菅野哲
今日、川内原発再稼働だっけ？バカにしてっとな。福島県人を何だと思ってんだって



奥州相馬宮仲神楽団
一カ所に集まって、櫓を組んで、盛大なお祭りをした。もう、残念ながら、出来ません



市澤秀耕
震災で避難する頃、東京に出ている従兄弟から電話をもらって、「どこに帰ればいいんだ」って泣くわけですよ



菅野益枝
野菜は作らないつもり。野菜は、自分で食べるのも、ちょっと考えものだなあと、思ってます



大久保美江子
何が悔しいって…自分で首を掛ける紐を、自分で薬のレジ袋を擦って編んでるっていう心境は



高橋日出代
何となく、色も何も無いような感じですよ。家は白っぽく見えるっていうか…。ね



酒井政秋
新しい飯館村、若手たちが頑張っていく飯館村としても、育んでいこうと決意した最中の事故でしたから…



渡邊美沙紀
けっこう、幼稚園でも小学校でも、出ている子の話を聞くんで。甲状腺に。その丸い、なんて言いましたっけ…



今中哲二
京都大学原子炉実験所助教
6マイクロシーベルトというのは、東京の100倍。東京の自然バックグラウンドが大体0.05～0.06くらいだから、100倍！

【私も推薦します】



鎌田慧(ルポライター)
突然、ごく普通の生活を奪われて、それがどんなに大事なものだっただのか、愛おしくなる。動物、植物、人びととの繋がり、それは放射能に汚染されていない土と美しい自然があってこそそのものだったのだ。豊田直巳さんが「までい」に描いた、「かえらざる生活」。東電よ、それを返せ！



高橋哲哉(東京大学大学院教授)
絆、恵み、喜び、故郷、家族、未来……これらを一瞬にして奪われた村の人びと。飯館村5年目の現在がここにある。

【自主上映、図書館リクエストのお願い】

原発震災から5年を過ぎ、被災者の苦悩は増すばかりです。一方で、この惨事への関心低下と記憶の風化は進む一方です。そこでご協力をお願いします。①お住まいの地元や職場、大学や学校で上映会を開催してください。②地元や大学の図書館、学校図書室にDVD購入(30,000円+税+送料)リクエストをお願いします。③作品をご覧になっていただくため、個人視聴用のDVD(2,000円+税+送料)ご購入をお願いします。④この情報をご友人や知人の皆さんにもお伝えください。

2016年8月
監督 豊田直巳